

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
E111B002		教育本質論 (Study of Essencials of Education)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	1	教育学部	前期	月3	日本語		単独						
担当教員	氏名 吉野敦													
	E-mail ayoshino@oita-u.ac.jp 内線 7539													
授業の概要	この授業では、教育哲学・思想史や教育史の分野で蓄積されてきた知見を学ぶ。そのことを通じて、「教育」や「学校」といった、普段は「自明なもの」として受けとられることの多い教育的事象の「本質」や「原理」について、みずから批判的に考える力を獲得することを目指す。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	教育に関わる基礎的概念について、教育思想史および教育史の知見を援用しながら説明できる							○	○					
目標2	日本および世界の教育の歴史について説明できる							○	○					
目標3	現代社会に固有の教育課題について、教育学的知見をふまえみずからの見解を述べることができる									○	○			
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								4	2	2	2			
授業の内容														
1	「教育」とは何か													
2	「教育学」とはどんな学問か													
3	「学校」とはどのような場所か													
4	「教える—学ぶ」という営みのとらえ方													
5	「子ども」とはいかなる存在か													
6	「近代教育」をめぐる思想史 : 「大教育思想家」たちの思考をたどる													
7	「近代教育」をめぐる思想史 : 教育可能性とメリトクラシー													
8	「近代教育」をめぐる思想史 : 教育と科学の関係史													
9	近代教育史 : 「教室」の誕生													
10	近代教育史 : 公教育制度の成立													
11	公教育と私教育—学校と家庭の関係をとらえる—													
12	近代教育批判—権力論における「主体性」—													
13	現代の教育課題 : 教育と人権													
14	現代の教育課題 : 子どもの権利と学校参加													
15	現代の教育課題 : デジタル・シティズンシップ													
ラーニングコンテイング	A:知識の定着・確認	○	レポート作成、グループでの討議、授業の振り返りコメント作成				工夫その他の	必要に応じてMoodleを活用する。						
	B:意見の表現・交換	○												
	C:応用志向	○												
	D:知識の活用・創造	○												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配布資料の予習(10h)												
	事後学修	配布資料および授業ノートの復習(10h)、レポート作成(25h)												
	想定時間合計	45												
教科書	間篠剛留編著『教育と出合いなおすための教育思想』教育開発研究所、2025年(ISBN : 978-4-86560-609-6)													
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(必要に応じて、文科省HPから閲覧する) その他、適宜資料や参考文献を指示・配布する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート		80%	○	○								
	授業後のコメントシート		15%	○	○	○							
	授業への参加態度		5%	○	○	○							
注意事項													
備考													
リンク		URL											